

事務事業名		下水道施設維持管理事業(浄化センター)			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	02 自然豊かな環境の保全と創造			事業期間		予算科目				
	施策名	04 良好な河川・港環境の保全					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	01 公共下水道等の整備					13	01	01	02	00
根拠法令		下水道法、下水道条例・施行規則									
所属	部課名	都市整備部 下水道事業所			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成6 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入						
	課長名	千葉 譲									
	係 名	業務係	電話	0192-27-3111							
	担当者	高木 隆幸	内線	201							
・大船渡町にある浄化センターの運転管理、環境整備などの施設および設備の管理を行う事業。また、定期的な点検整備・修繕工事(委託)をし、必要に応じて機器の取替え、更新を行う。 ・主な業務は、施設運転管理(委託)、定期点検整備(委託)、修繕工事(委託)。 ・事業費は、施設運転管理に要する費用及び維持管理などの委託費用や光熱水費等として支出される。					全体計画(※期間限定複数年度のみ)						
					総投入量 (千円)	事業費 内訳	財源	国庫支出金			
							都道府県支出金				
							地方債				
							その他				
							一般財源				
							事業費計 (A)	0			
人件費	正規職員従事人数										
	延べ業務時間										
	人件費計 (B)	0									
	トータルコスト(A)+(B)	0									

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標										
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 施設運転管理(委託)、定期点検整備(委託)、修繕工事(委託)				⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)						
				名称					単位	
				ア	浄化センターの点検・維持補修箇所数				箇所	
				イ						
今年度計画(今年度に計画している主な活動) 前年度と同じ				ウ						
				⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)						
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 ・下水道供用開始地区で集められた汚水 ・浄化センター ・下水道利用者				名称					単位	
				カ	流入水量(日最大)				m ³ /日	
				キ	浄化センター汚水処理能力				m ³ /日	
				ク	供用開始区域内人口				人	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 汚水を水質基準に適合するように適正に処理する。				⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)						
				名称					単位	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 港湾・河川への環境負荷を軽減し、公共用水域の水質を保全する。				サ	放流水BOD(生物化学的酸素要求量)				mg/l平均	
				シ						
				ス						
(2) 総事業費・指標等の推移										
			年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)	
投入量	事業費	国庫支出金	千 円							
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円							
		その他	千 円	29,798	79,335	90,639	104,995	85,000	85,000	
		一般財源	千 円							
		事業費計 (A)	千 円	29,798	79,335	90,639	104,995	85,000	85,000	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時 間	24	24	24	24	24	24	
		人件費計 (B)	千 円	96	96	96	96	96	96	
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	29,894	79,431	90,735	105,091	85,096	85,096	
⑤活動指標			ア	箇所	0	26	12	8	8	8
			イ							
			ウ							
⑥対象指標			カ	m ³ /日	3,458	5,905	6,898	4,500	5,000	5,500
			キ	m ³ /日	3,200	6,400	6,400	6,400	6,400	6,400
			ク	人	11,726	9,629	9,691	15,320	15,320	15,320
⑦成果指標			サ	mg/l平均	132.1	3.3	2.5	5	5	5
			シ							
			ス							

事務事業ID	0707	事務事業名	下水道施設維持管理事業(浄化センター)
--------	------	-------	---------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
平成6年に浄化センターが開設され、公共下水道事業の一部供用開始により、その維持管理が必要となった。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
・盛町全域並びに大船渡町(須崎川以南の笹崎、永沢地区)、赤崎町の一部の供用開始区域拡大に伴い、流入水量(日最大)が増加していくことが見込まれる。
・浄化センターの放流水が注ぐ大船渡湾の水質は、ほぼ現状維持の状態にある。
・区域内の下水道普及率は徐々に高まっており(25年度末時点45.6%)、3年以内の接続が義務づけられている。
・H23.3.11震災により被災したが、H25.3全施設・設備の復旧が完了した。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
特になし

2 評価の部(SEE)＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 浄化センターの維持管理は、大船渡湾をはじめとする公共用水域の水質保全につながる。その結果、居住環境の向上に結びつく。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 公共施設の適正な維持管理(委託)は、市の義務であり、大船渡湾をはじめとする公共用水域の水質保全にもつながるので妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 供用開始区域の拡大に伴い汚水処理量の増加が見込まれる。その対応として、17・18年度に施設の増設を行った。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 現在でも水質基準(15mg/1平均)を達成しており、その水準を維持していく方針である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 適切な汚水処理ができなくなってしまうため、本事業を廃止・休止することは、公共用水域の水質汚濁につながる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 庁内に類似事業はない。浄化センターの維持管理は、専門的な知識、ノウハウを要するため、現状では他の手段は考えられない ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 浄化センターの維持管理は、委託業務で行っており、一般的には汚水処理量の増加に伴って、委託費用も増加していく傾向があるが、本市では、業務内容を精査(処理水の利用、機械設備修繕のタイミングなど)して、その増加を抑えてきている。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 平成14年度には、主に電気・計装関係の委託業務を見直して、市の職員を2名から1名減員し、平成16年度にも1名減員した。浄化センターの維持管理を全面委託していることから、コストの縮減は図られている。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 特別会計の下水道使用料で実施している事業であり、受益者の負担は適正である。

事務事業ID	0707	事務事業名	下水道施設維持管理事業(浄化センター)
--------	------	-------	---------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 災害による不明水の増加等の理由により、放流水の水質の安定には一定の期間を要するものと見込まれる。 効率性の改善については、現行の維持管理業務の中で、コスト縮減に努めた。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 包括的民間委託を検討した経緯があるが、包括的民間委託にはさまざまなメリット・デメリットが指摘されており、当面、現行の維持管理業務の中で、コスト縮減に努めるものとする。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 包括的民間委託にはさまざまなメリット・デメリットが指摘されており、当施設での導入の可否判断は今後の課題とし、当面、現行方法により、安定運営に向けた対応を図る。																							

4 事務事業の2次評価結果

(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	下水道事業所長
	千葉 譲

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

- ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)
- ☐ 記述不足でわかりにくい
☐ 一部記述不足のところがある
☒ 記述は十分なされている
- ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)
- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 災害復旧後、放流水の水質が高水準を維持しており、適切な処理が行われているが、処理水量の大幅な増加に伴い維持管理費が増加傾向にあり、更なる効率化が求められる。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 現状どおりの処理水準を維持しつつ、計画的な修繕や省エネの徹底等により事業費の圧縮に努めると共に、発注方法の見直し等、効率的な維持管理のあり方について検討を進める。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
